

## 株式会社フコク 2023年3月期 決算説明会 質疑応答要旨

株式会社フコク

Q. 2022年度に顧客への価格転嫁が進んだ要因と2023年度の実績について。

- ・ 2022年度上期から原材料価格高騰の影響を受けてきたものの、利益を確保すべく、社内努力としての合理化や省人化を進めてきた。しかしながら、それでもカバー出来ない分については、顧客への転嫁をお願いしてきた。進捗として、大方の交渉は終わっているが全てが完了したわけでは無いので、引き続き交渉を続けて行く。

また、価格転嫁出来た分については、次年度においては年間ベースでその効果が出てくるため、PLにも貢献する見通し。

Q. バッテリーホールドシートと放熱ギャップファイラーが収益寄与する規模とその時期について。

また、これらはEV車にとってどの程度重要な部品なのか。

- ・ バッテリーホールドシートは昨年度からトヨタ自動車のEV車であるbZ4Xに搭載されており、当初10億円程度の売上を見込んでいた。放熱ギャップファイラーの量産化はこれからだが、お客様の要求仕様を満足している状況であり、次年度以降、収益寄与する見通し。
- ・ バッテリーホールドシートは電池になくてはならない部品であり、放熱ギャップファイラーは電池の放熱に重要な役割を担う部品であるなど、どちらもEV車には欠かせない重要な部品。今後、EV車の増加にあわせて、拡販を進めていく。

Q. 海外事業の選択と集中について。特にアセアン地域での取り組み内容について。

- ・ インドとタイでは鋳物工場の生産合理化を継続していく。
- ・ インドでは市場調査を実施済。開発人員を増強して、R&D体制を整える計画。

Q. PBR1倍割れの対応の具体的な施策とその時期について。

- ・ PBRについては2年前から既に取り組みを進めており、過去の0.4倍台から0.5倍台に改善しているが、現時点では目標の1倍には達成していない。今後も資本の増加を抑えながら利益増に取り組みすることでROE向上を目指していく。
- ・ そのためにも、株主還元への注力と共に、より積極的なIR活動を進めていく。また、お客様に夢を抱いて頂ける製品を開発していく。

Q. 為替レート2022年度実績と2023年度計画値について。

- ・ 2022年度実績は1ドル130.77円。2023年度は1ドル130円の想定。

以上